

アスタの

Sèkmès スパイイス！

第1回



ラバス！ 国際交流員のアスタです。

今月からアスタのSèkmèsスパイイスのコーナーが始まります。Sèkmès (セクメース) は「幸運の」という意味です。

皆さんいよいよ春ですね。八丈島の冬はリトアニアほど寒くはないが、寒いと感じたことがありました。

日本で春の訪れの象徴といえば桜ではないかと思いますが、八丈島の場合はどうでしょうか？ピンと来たのが「フリージア」です。フリージアの花が咲き始め、すでに緑や色が多い島がもっと鮮やかな色になっていくのだろう、とまだ八丈島の春を体験していない私が思いました。

梅雨に入り季節が変わり、梅雨が終わると穏やかな夏に変わるのでしょうか？

リトアニアの場合、暦で決められている春の期間はもちろん、それ以外にもう一つの春のはじまりと終わりを感ずる方法があります。

春のはじまりを宣言するのが **Užgavėnės (ウジュガベネス)** です。ウジュガベネスは冬を追いやり春を迎え入れるための行事です。寒い冬を追い出すために人が怖い仮装をして、冬を象徴する太った男と、春を象徴する細い男の決闘や、冬の化身であるMorė (モーレ) を焼きはらうなどのイベントが行われます。ウジュガベネスは冬の最後の日だと考えられていて、脂肪分の多い料理を食べることが習慣です。次の日からは、イースターに向けて約40日間の断食期間（特に肉を食べないこと）が始まります。

春の終わりは、人が作り出したイベントではなく、自然が決めます。ということかと言うと、どこにも書いていないが、誰もが知っている言い伝えがあります。「雷鳴が3回轟くと泳げます」。聞いたことがありますか？

雷雲が集まるほどの温かい気温になるのは、夏の時期に入ってからです。では、なぜ泳げるまで1回ではなくて3回待つ必要があるかと言うと、1回では天気が温かくなったり寒くなったりするため、水の温度が温まるのが、空気の温度より時間がかかるからです。しかし、3回あれば、また寒くなる確率が低く、水が温かいまま泳げるようになります。つまり、リトアニア人の考えでは、水が泳げる温度になれば春が終わり、そこからは楽しい夏が始まります。

今年の八丈島の春はどんな春になりますか？ 楽しみにしています。

Iki (イキ)、またね！

■問い合わせ■ 企画財政課企画情報係 電話 2-1120

ホームページでAstaの日記が始まりました！
興味がある方、ぜひ見てください。

